

平成 25 年 8 月 28 日

長岡市教育委員会（定例会）会議録

長岡市教育委員会

1 日 時 平成 25 年 8 月 28 日 (水曜日)

午後 2 時 45 分から午後 4 時 50 分まで

2 場 所 中央公民館 401 教室

3 出席委員

委員長 大橋 岑生 委 員 羽賀 友信 委 員 中村 美和
委 員 青柳 由美子 教育長 加藤 孝博

4 職務のため出席した者

教育部長	佐藤 伸吉	子育て支援部長	矢沢 康子
教育総務課長	若月 和浩	教育施設課長	中村 仁
学務課長	田村 均	学校教育課長	田中 仁
子ども家庭課長	佐藤 正高	保育課長	栗林 洋子
中央公民館長	武樋 正隆	中央図書館長	金垣 孝二
科学博物館長	山屋 茂人	学校教育課主幹兼管理指導主事	笠原 徹
学校教育課主幹兼管理指導主事	山之内方史		

5 事務のため出席した者

教育総務課長補佐	茂田井裕子	教育総務課庶務係長	水内 智憲
教育総務課庶務係	平澤 司	学校教育課長補佐	竹内 正浩
学校教育課企画推進係長	野池 康一	学校教育課学校支援係長	金澤 俊道

6 議事日程

日程	議案番号	案 件
1		会議録署名委員について
2	第 36 号	専決処理について（補正予算の要求について）
3	第 37 号	平成 24 年度教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価報告書について
4	第 38 号	条例改正の申出について（長岡市児童館設置条例の一部改正）
5	第 39 号	補正予算の要求について
6	第 40 号	長岡市教育委員会表彰被表彰者の決定について

7 会議の経過

（大橋委員長） これより教育委員会 8 月定例会を開会する。

日程第 1 会議録署名委員について

（大橋委員長） 日程第 1 会議録署名委員の指名を行う。会議録署名委員については、会議規則第 44 条第 2 項の規定により、羽賀委員及び青柳委員を指名する。

日程第 2 議案第 36 号 専決処理について（補正予算の要求について）

（大橋委員長） 日程第 2 議案第 36 号 専決処理について（補正予算の要求について）を議題とする。事務局の説明を求める。

（佐藤教育部長） 去る 7 月 29 日から 8 月 1 日にかけての豪雨により、市内各所で局地的に住宅の床上・床下浸水、土砂崩れ、道路や農地の冠水被害を受けた。この豪雨による園児、児童生徒に対する人的被害はなく、また、学校、保育園の施設の被害もほとんどなかった。しかし、乙吉町や寺泊地域では、児童生徒の自宅が床上浸水の被害を受けた。その際、教科書や学用品等が棄損した。本件は、この被害に対し必要な補正予算を計上したものであり、緊急かつ速やかに予算を執行しなければならないことから、8 月 19 日に専決処理を行ったものである。詳細については

各担当課長より説明する。

(田村学務課長) 歳出予算の災害救助費に、平成 25 年 7 月・8 月豪雨児童生徒就学支援事業費を要求した。これは、被害を受けた浦瀬小学校、大河津小学校、山本中学校の児童生徒 7 名の学用品及び通学用品に関する支援である。

(田中学校教育課長) 同じく、平成 25 年 7 月・8 月豪雨児童生徒就学支援事業費を要求した。これは、被害を受けた浦瀬小学校、山本中学校の児童生徒 4 名の教科書に関する支援である。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(中村委員) 本件は、該当する家庭に対して直接支援したもののか。

(田村学務課長) 学用品及び通学用品については、被害を受けた家庭から申請を受け、直接その家庭へ支援したものである。

(田中学校教育課長) 教科書については、学校を通して児童生徒へ配布するものである。なお、既に配布済みである。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) ないようなので、これより採決に移る。本件は、原案のとおり承認することに異議ないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 異議なしと認める。よって、本件は原案のとおり承認した。

日程第 3 議案第 37 号 平成 24 年度教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価報告書について

(大橋委員長) 日程第 3 議案第 37 号 平成 24 年度教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価報告書について を議題とする。事務局の説明を求める。

(佐藤教育部長) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 27 条の規定に基づき、毎年、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに公表することが義務づけられている。点検及び評価については、学校教育、社会教育、

子育て支援の各分野の学識経験者4名で構成する事務評価委員会を設置し、作業を進めてきた。事務評価委員会の会議は5月23日、7月2日及び8月5日の3回開催し、2回目の会議では教育委員の皆さんにも出席してもらい、事務評価委員との意見交換を行った。3回の会議を経て事務評価委員会の意見がまとめられ、8月12日に中曽根事務評価委員長から大橋教育委員長に点検及び評価結果が提出された。事務評価委員会の全体を通しての意見としては、「創意ある施策をきめ細かく着実に進めており、目標値以上の成果が出ている事業もある。教育委員と事務局とのコミュニケーションもよくとれており、学校や施設に直接、足を運ぶことで現場の声を事業に反映させている。今後の発展が期待できる新規事業を積極的に展開したり、関係機関との連携も密に行っており、事業全般にわたって概ね評価できるものである。」との評価をいただいた。事務評価委員会の点検及び評価結果を付した平成24年度教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価報告書については、9月市議会で報告する予定である。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(大橋委員長) 事務評価委員会の点検及び評価結果について、教育委員から意見をもらいたい。最初に「教育委員会会議の開催及び審議状況等について」に関し、意見をお願いしたい。

(青柳委員) 好意的に評価してくれていると感じた。「教育委員会を身近に感じてもらい、活動を理解してもらうための工夫がされるよう期待したい。」という部分が大切だと感じた。例えば、通学路一斉安全点検は学校が主体となってやっている事業だと思われがちだが、教育委員会が長年行っている事業であり、保護者も大変良い活動だと思っているようなので、これは教育委員会の活動であるという認識を持ってもらえるように啓発していく必要があると思った。

(中村委員) 市民にとって教育委員会は遠い存在だと思われる。しかし、熱中！感動！夢づくり教育の事業は素晴らしく、自慢できる活動であると思っている。アオーレ長岡でのイベントも多数行っており、市民に少しずつ浸透してきているように感じている。今後は、今以上に市民から教育委員会定例会を傍聴してもらい、身近な存在であるとの認識を得られるようにする工夫が必要である。

(大橋委員長) 中村委員の発言のように、教育委員会の活動を理解してもらうため、

アオーレ長岡など市民が集まる場所での事業に、教育委員として積極的に参加してPRする必要があると思う。また、学校に対する教育委員会のサポート体制についても市民にわかるようにPRしていきたい。見せ方を工夫する必要がある。学校としても開かれた考え方を持つように意識してほしい。

(大橋委員長) 続いて、「教育委員会における事務の点検・評価について」のうち、「1 生涯健やかで、いきいきと暮らせるまちの実現」について、意見をお願いしたい。

(中村委員) 本日、訪問した越路小学校には知的・情緒障害のクラスがある。そのクラスには、過去に市内の柿が丘学園に在籍していた児童が在籍しており、以前は会話もままならない子どもであったが、現在は意見を発表するなど元気になっている姿が見られた。「すこやかファイル」などの活用による円滑な連携が効果を上げているとのことである。大変嬉しいことである。

(羽賀委員) 「子育てを応援する環境の整備」について、例えば、保育士のいる子育ての駅を整備しているのは教育委員会であることをパンフレットに表記するなど、PRに工夫が必要だと思う。市民ニーズに合わせた施策を実施していることをもっと広く周知して、市民にわかってもらう工夫が必要ではないか。

(大橋委員長) 続いて、「2 人材と文化をはぐくむ人間性豊かなまちの実現」のうち、(1)から(4)について、意見をお願いしたい。

(青柳委員) 一般的に事業の継続の判断基準として参加人数を用いることがあるが、熱中！感動！夢づくり教育関連事業については、参加人数が少なくても教育効果があるものや、継続の必要性が高いものについては、事業を廃止しないようにすべきだと思う。

(佐藤教育部長) 青柳委員のご意見のとおり、行政の事業は人数で評価しがちであるが、教育についてはそれだけでは測れないと思っており、参加人数だけで事業の廃止を決めてはならないと考えている。なお、これまで参加人数を根拠に廃止した事業はない。熱中！感動！夢づくり教育事業を開始してからまもなく10年を迎えるにあたり、現在、熱中！感動！夢づくり教育推進会議において、これまでの事業の検証を行っている。今後10年の事業の在り方について、事業の検証を行いながら決定していきたい。

(大橋委員長) 全体を通しての意見にもあるとおり、時代の変化に合わせた事業の再検討を行うことが重要である。

(羽賀委員) 膨大な数の事業を精査するのは大変な作業であるが、幅広い観点から検証を行い、今以上に良い事業になることを期待している。

(加藤教育長) 長岡市と同程度の自治体規模で、教育にこれだけの予算をかけているところはない。平成 25 年度長岡市の児童生徒・保護者・教員意識調査の結果において「熱中!感動!夢づくり教育」の保護者の認知度が低かったことが残念だ。このことに危機感を感じており、今以上にがんばっていきたい。

(大橋委員長) 個別の事業は大変素晴らしいので、これらの事業が熱中!感動!夢づくり教育の一環であるということを、保護者に伝わるように工夫してほしい。

(大橋委員長) 続いて、「2 人材と文化をはぐくむ人間性豊かなまちの実現」のうち、(5)及び(6)について意見をお願いしたい。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 全体を通して質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) ないようなので、これより採決に移る。本件は、原案のとおり決定することに異議ないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 異議なしと認める。よって、本件は原案のとおり決定した。

日程第 4 議案第 38 号 条例改正の申出について(長岡市児童館設置条例の一部改正)

(大橋委員長) 日程第 4 議案第 38 号 条例改正の申出について(長岡市児童館設置条例の一部改正) を議題とする。事務局の説明を求める。

(佐藤子ども家庭課長) 利用者の減少による桐原児童館の閉館に伴い、長岡市児童館設置条例の一部を改正する。今回の改正は、桐原児童館に関する項を削除するものであり、平成 26 年 1 月 1 日から施行する。これまで桐原児童館が担ってきた役割については、寺泊支所が少年教育活動事業として社会教育・公民館活動の視点を

盛り込みながら実施していく予定である。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) ないようなので、これより採決に移る。本件は、原案のとおり決定することに異議ないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 異議なしと認める。よって、本件は原案のとおり決定した。

日程第5 議案第39号 補正予算の要求について

(大橋委員長) 日程第5 議案第39号 補正予算の要求について を議題とする。事務局の説明を求める。

(若月教育総務課長) 9月市議会に諮る予定の補正予算の要求内容について説明する。教育総務課では、歳出としては、小・中学校にある老朽化した顕微鏡などの理科教材を入れ替えるための理科教育等設備整備事業費及び寄附金を活用した図書購入費を、歳入としては理科教育等設備整備事業費分の国庫補助金及び篤志者からの図書購入費寄附金を要求するものである。

(田中学校教育課長) 小・中学校における特別支援教育を推進するため、国の委託事業であるインクルーシブ教育システム構築モデル事業を受託する経費及びこれに伴う国からの委託金を要求するものである。

(金垣中央図書館長) 長岡市子ども読書活動推進計画を促進するため、国の社会教育活性化支援プログラムを県が受託し、それを市が再受託する経費及びこれに伴う県からの委託金を要求するものである。

(山屋科学博物館長) 上条高畑土地区画整理事業の事業予定地から遺跡が発見されたため、この遺跡発掘調査を行う経費及び土地区画整理を行う事業者からの受託収入を要求するものである。

(佐藤子ども家庭課長) 歳入として、子ども手当及び児童手当の事業費確定に伴う国・県負担金精算金を、歳出として、子ども手当、障害児通所給付及び放課後児童健全育成事業等の事業費確定に伴う精算のため、国、県に対する返還金を要求する

ものである。

(栗林保育課長) 歳入として、病児・病後児保育事業利用者の増加に伴う補助金及び保育所運営費国庫・県負担金精算金等を、歳出として、病児・病後児保育事業利用者の増加に伴う委託事業者への委託料及び国・県補助金等返還金過年度分を要求するものである。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(加藤教育長) インクルーシブ教育システム構築モデル事業のモデル校はどこか。

(田中学校教育課長) 富曾亀小学校である。

(加藤教育長) 具体的な事業の内容はどのようなものか。

(田中学校教育課長) 学校で実施している特別支援教育に関する取組みについて、文部科学省へ情報提供を行うものである。事業の実施にあたり、学校は専門家からアドバイスをもらうことができる。

(加藤教育長) 事業の実施にあたり、学校に過度な負担がかからないように配慮してほしい。

(加藤教育長) 上条で発見された遺跡はどの時代のものなのか。

(山屋科学博物館長) 古代から平安時代のものであると推測される。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) ないようなので、これより採決に移る。本件は、原案のとおり決定することに異議ないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 異議なしと認める。よって、本件は原案のとおり決定した。

日程第6 議案第40号 長岡市教育委員会表彰被表彰者の決定について

(大橋委員長) 日程第6 議案第40号 長岡市教育委員会表彰被表彰者の決定について を議題とする。先ほど、定例会前に被表彰候補者の功績等について内申者からヒアリングを実施したので、そのヒアリングを踏まえ、各被表彰候補者について、被表彰者として適しているか否かを決定したい。

(大橋委員長) 整理番号1の猪俣隆一さんについて、被表彰者として決定してよろしいか。

[全員了承]

(大橋委員長) 整理番号2から7までの金澤信三さん、阿部正樹さん、関根家機さん、木村照美さん、岸敬子さん、小林哲子さんについて、被表彰者として決定してよろしいか。

[全員了承]

(大橋委員長) それでは、候補者全員を被表彰者として決定する。

(大橋委員長) 本日の日程は終了する。次に協議報告事項に入る。報告事項として、第12回 いきいき教育推進懇談会の実施報告について、事務局の説明を求める。

(田中学校教育課長) 8月10日に長岡リリックホールを会場にいきいき教育推進懇談会を開催した。最初に学校教育課指導主事から、長岡市の児童生徒・保護者・教員意識調査の結果について説明し、その後、パネルディスカッションを行った。パネルディスカッションでは、学校と家庭を結んでいる山通コミュニティセンターの取組みや、パネリストの1人である大桃新潟県立大学人間生活学部長のお話など、参考となる発表が多数あった。また、大桃教授の基調講演があったら、なお良かったとの参加者の声もあった。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(大橋委員長) 意識調査については、多くの方の努力により平成18年度に実施した前回調査よりも良い結果になっていて大変嬉しい。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。次に、平成25年度 第1回長岡市熱中！感動！夢づくり教育推進会議報告について、事務局の説明を求める。

(田中学校教育課長) 7月22日にアオーレ長岡を会場に推進会議を開催した。会議内容は、平成25年度「熱中！感動！夢づくり教育」の概要について、「熱中！感動！夢づくり教育」の評価について、現在の子どもたちの課題についてであった。

委員から、「熱中！感動！夢づくり教育」の評価については、家庭学習の時間の増加は各中学校の様々な工夫の成果である等の意見が出た。また、現在の子どもたちの課題については、子どもたちのコミュニケーション能力が弱まっていると先生方は感じているようであるが、学習が深まってくれば自然に他者とコミュニケーションしたくなり、コミュニケーション能力が高まるはずである等の意見が出た。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。次に、平成 25 年度第 1 回長岡市青少年問題協議会会議報告及び平成 25 年度長岡市青少年健全育成総合対策実施計画について、事務局の説明を求める。

(佐藤子ども家庭課長) 平成 25 年度第 1 回長岡市青少年問題協議会を 7 月 3 日にアオーレ長岡を会場に開催した。会議では、青少年対策の基本方針と施策の重点、平成 25 年度実施事業について、長岡市青少年健全育成総合対策実施計画(案)に基づき説明し、質疑応答を経た後に承認された。完成した冊子を資料として配布したので後ほど御覧いただきたい。また、長岡地域若者サポートステーション総括コーディネーターである近藤円委員から、「サポートステーションにおける若者の就労及び自立に向けた支援について」というテーマで事例発表があった。その後の意見交換では、実施計画に「連携」という言葉が多く使用されているが、一方通行のお知らせやお願いでは連携したことにはならないので、連携する団体同士のつながりを密接にし、風通しの良い関係を普段から築いておくことが必要である等の意見が出た。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(青柳委員) 本会議に出席したが、当日配布されたリーフレットが白黒印刷であり、冷たい印象を受けるという指摘があった。また、現場目線の意見が少なかったように感じており、少し残念だった。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。次に、平成 25 年度 長岡市成人式(8 月実施分)について、事務局の説明を求める。

(佐藤子ども家庭課長) 8月中に支所地域で開催された成人式について報告する。山古志地域では14日に開催し、14人の新成人が出席した。翌日の15日には5地域で開催し、中之島地域で112人、三島地域で64人、和島地域で43人、寺泊地域で98人、与板地域で62人の新成人が出席した。山古志地域では、式の後にアルパカ牧場に移動し、アルパカと記念撮影をした。また、与板地域では中川清兵衛にちなみ、サッポロビールから新潟限定ビールの寄贈を受けたので、新成人1人につき2本を記念品として渡した。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。次に、附属機関会議報告について、事務局の説明を求める。

(武樋中央公民館長) 8月7日に中央公民館を会場にして、第2回社会教育委員会、公民館運営審議会を開催した。会議内容としては、平成24年度に中央公民館及び地区公民館で実施した公民館活動、青少年教育活動、高齢者の教育活動、家庭教育活動等の事業について、「長岡市の公民館(平成24年度事業実績)」の冊子に基づいて説明し、意見交換を行った。予算上のサポート要請や各種事業に対する評価の重要性などの意見が出た。

(金垣中央図書館長) 7月25日に中央図書館を会場にして、第1回長岡市図書館協議会を開催した。報告事項として、平成24年度の実績報告及び平成25年度の重点事業について、TRC自主事業「語り継ぐもの・中越地震データベース」について、子ども読書活動推進計画について報告した。その後、長岡市図書館活動評価の見直しについて協議した。結果として、見直しについて出席委員全員から賛成してもらったが、見直しにあたっては、図書館の重点事項の評価とそれを達成するための事業概要の評価の関連を分かりやすくしてほしいとの意見も出た。また、重点事項の精査が重要であり、どの事業に視点を当てるのかしっかり検討してほしいなどの意見が出た。続いて、7月17日に栃尾美術館を会場にして、第1回長岡市栃尾美術館協議会を開催した。平成24年度事業報告、平成25年度事業計画について報告し、その後、栃尾美術館の魅力づくりについて協議した。委員からの主な意見としては、小・中学校が美術館を上手に利用する方法があると良いなどの意見が出た。

委員からの意見を参考に栃尾美術館の魅力作りのための取組みを進めていきたいと考えている。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。次に、ながおかハイスクールガイダンスの実施報告について、事務局の説明を求める。

(竹内学校教育課長補佐) 今年度の新規事業として、8月21日の午前、午後の2部制でアオーレ長岡アリーナを会場に開催した。市内及び近隣の高等学校、高等専門学校及び総合支援学校高等部、合計19校から参加協力を得ることができた。参加者は市内の中学生、保護者、市民、教職員の計1,500人である。参加19校全ての学校紹介ブースにおいて各学校の学習内容や学校の特徴等の説明が行われた。また、長岡高校理数科、長岡農業高校、長岡工業高校、長岡商業高校、長岡工業高等専門学校などの専門性の高い学校の実習体験ブースを作った。成果としては、参加者の9割以上が「参考になった」との感想を持っており、進学希望校の先輩方から、学校の特色ある授業やクラブ活動の様子、学校生活の様子などを具体的に聞いたことが、普段の学校説明会とは違って良かったとの感想があった。また、普通科を志望している生徒が長岡農業高校の学校説明を聞いて、普通科以外の選択肢も広がったという話も聞くことができた。総合支援学校高等部の教員からは、わずか1日の経験だったが、生徒が大きく成長した姿が見られたとの感想があった。中学校の教員からは、生徒の選択肢が広がるだけでなく、中学校の教員としても自校の進路指導に生かしたいとの感想があった。最後に事故報告が1件ある。総合支援学校の接客サービスの体験コーナーで、コーヒーと一緒に提供した胡桃クッキーを食べた子どもが胡桃アレルギーだったためにアレルギー症状を発症し、会場に常駐していた養護教諭が対応して、念のため救急車で病院へ搬送した。長岡農業高校などでもケーキや米などを提供していたので、教員を通じてアレルギーのある人に対して詳細な説明をするよう指導した。次回はこの点に関して改善したいと思う。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(加藤教育長) 次回以降、アレルギー対応については細心の注意を払い、2度と同じ事故が起きないように努めてもらいたい。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。次に、アイスブレイクの会の実施報告について、事務局の説明を求める。

(金澤学校教育課学校支援係長) 前回の定例会で報告した、新規事業のアイスブレイクの会の親子活動について報告する。8月19日に三島地域の杉公園を会場にして親子活動を行った。参加者は2家族4名であり、1年生と3年生の女子児童とその保護者である。活動内容は炭火を起こして鉄板で焼きそばとマシュマロを焼き、みんなで食べるというものである。1年生と3年生の女子児童が最後には打ち解けて、一緒に遊具で遊ぶ姿が見られたのが印象的であった。短い時間であったが、慣れない手つきで野菜を切り、使ったことのない道具で炭火を起こし、焼きそばを焼き、一緒に食べるという体験は2人にとって貴重なものであつたらうと思う。内容については学校に報告し、今後も見守っていきたいと考えている。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(加藤教育長) とても良い事業なので、開催回数を増やす予定はあるか。

(金澤学校教育課学校支援係長) 現在検討中である。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。他に報告事項はないか。

(笠原学校教育課主幹兼管理指導主事) 平成25年度全国学力・学習状況調査(教科に関する調査)結果概況について報告する。小学校については、国語、算数ともに「主に知識に関する問題」の結果が全国平均を上回った。一方、国語、算数ともに「主に活用に関する問題」の結果が全国平均を少し下回った。中学校については、数学の「主に活用に関する問題」の結果以外は全国平均を上回った。この結果を詳細に分析し、今後の学力向上の資料として活用したいと考えている。

(金垣中央図書館長) 栃尾美術館において、9月21日から11月24日の期間で「k o k e s h i p o p ポップでカワイイこけしの世界」を開催する。こけしをテーマにした大規模な展示会は県内では初めてである。期間中には楽しいワークショップや職人によるトークショーなど、こけしづくしの催しが予定されている。是非

お越しいただきたい。

(佐藤子ども家庭課長) 子ども家庭課より3点紹介する。初めに、9月21日に「子育ての駅千秋てくてく」において開催する子育てフェスティバル2013のご案内である。本フェスティバルは実行委員会を立ち上げて実施しており、毎年度、参加団体が変更となるが、今年度は赤城コマランドから新たに参加してもらおう。子育て関連の団体のネットワークを広げる意味もあるため、是非お越しいただきたい。次に、平成25年度版子育てガイドについてである。本ガイドは長岡市の子育て関連の制度を紹介するものであり、毎年度内容を更新して発行している。今年度版は7月下旬から配布を始めている。最後に、「はぐくみ長岡第165号」について紹介する。本号では、平成24年度の育成活動や青少年相談業務の実施結果分析等について掲載している。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。他に報告事項はないか。これをもって協議報告事項を終了する。

(大橋委員長) 本日は、定例会の前に関原小学校、越路小学校を訪問した。委員の皆さんの意見、感想はいかがか。

(青柳委員) 関原小学校の特色は地域の力が大きいことである。セーフティーパトロール活動や、総合的な学習の時間に里山を保存する会が協力してくれるなど、地域の協力が活発である。また、石を投げる、エアガンで遊ぶなどの危険な行為を地域で未然に防ぐような体制があり、地域が子どもを教育する風潮がある。

(羽賀委員) 関原小学校は地域との連携が密接であると思った。里山の管理をしている団体が学校の学習活動に協力しており、6年生は十日町市と津南町と連携して、学習発表会を11年間続けているそうである。また、小学校と中学校の連携が良い地域でもある。障害のある子どもに関する情報提供などの連携がとれているため、中学校進学にあたっての大きなメリットとなっている。

(中村委員) 越路小学校では、総合的な学習の時間の題材として、越路地域出身者

であり、東洋大学の創設者である井上円了を取り上げている。6年生は修学旅行で東洋大学を訪れ、自分の学習内容を発表する機会を設けているそうである。

(大橋委員長) 越路小学校は、東洋大学と合同で合唱も行っているそうである。また、6年生の算数の授業では、習熟度別に3段階の少人数学級を設定し、子どもが保護者と相談して判断したレベルの学級で、授業を受けるという取組みを行っており、その成果が良ければ広めていって欲しいと思う。

(大橋委員長) これをもって本日の定例会を終了する。

会議の次第を記載し、その相違ないことを証するために署名する。

長岡市教育委員会委員長

長岡市教育委員会委員

長岡市教育委員会委員